

# はじめに



日本の政府開発援助 (ODA) は 2014 年に 60 周年を迎えました。

多様化し、激動する今日の世界の中で、新興ドナーの台頭を始めとして、国際協力を取り巻く環境は様変わりし、ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成やポスト MDGs (ポスト 2015) の枠組み議論が佳境を迎える時期にあります。

こうした中、日本の ODA を一元的に担う開発援助機関である JICA に対しては、日本国内や国際社会からの期待が以前にも増して高まっています。

他方、開発途上国の抱える課題は、いずれも予め回答が用意されているものではありません。JICA は、こうした課題の解決を目指して様々な事業に取り組み、所期の開発効果が実現するよう、事業の関係者 / パートナーと一緒に努力しています。

開発効果の実現に向けては、過去・現在・将来の事業の評価を適切に行い、そこから得られる教訓を活用して、関連事業を実施していく責任があります。また、国民の皆様をはじめとする関係者の方々に、事業評価の結果を適時に公開して説明責任を果たす必要もあります。

この報告書は、JICA が行った事業評価を年次報告として取りまとめたものです。JICA の事業評価制度や評価の改善に向けた取組みを紹介すると共に、外部の評価者による事後評価の結果やテーマ別評価の概要も掲載しています。

本書が JICA の事業評価活動に対する皆様のご理解の一助となれば幸いです。  
今後の JICA に対する一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2014 年 3 月  
国際協力機構 (JICA)  
理事長  
田中明彦